

タイトル	平成 29 年度 一般入試（前期試験） 教育学部美術専攻 芸術・表現系小論文問題（美術）
評価のポイント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 提示されたテーマについての考察が、自分の経験や知識・感性に照らし合わせて具体的に行われているか。 2. 写真内の対象（作者、作品など）に対する細やかな観察と考察に基づく記述が行われているか。 3. 美術や関連する社会の歴史や現状に関する基礎的な知識についての言及や考察が行われているか。 4. 問題文の指示を守った方法で表記が行われているか。論旨が明快で、誤字脱字がなく、文章表現に乱れないか。規定の文字数に対して適切な量の記述を行っているか。
解答例	<p>この絵をよく見てください。中央に座っているのがタンギー爺さんです。そして彼の後ろには日本の浮世絵が描かれています。画面の右下と左下にはしまのある部分があります。タンギー爺さんの服装は、黄色いシャツの上に、厚そうな生地の子色の上着をしっかりと着ており、茶色のズボンをはいて、何かに座っています。帽子をかぶり出かける前のかっこうに見えます。青い目はまっすぐ前を見つめて、両手はしっかりと組まれ、かしこまってモデルになっているようです。</p> <p>背景には、富士山や雪景色、桜、朝顔、そして美人画の浮世絵があります。着物の細かい柄まで油彩画で苦労して、でもしっかりと写しているように思いませんか。たぶん、こんな日本らしい風景や人々を、ゴッホは好きだったのでしょうか。</p> <p>当時のヨーロッパでは、ジャポニスムといって、写実的ではない平面的・装飾的な表現が特徴の日本美術が、新しい世界の見方として流行し、画家にも影響を与えていました。浮世絵では大胆なデフォルメが行われ、はっきりとした輪郭線で、絵師は見たままではなく描きたいように表現しています。タンギー爺さんはゴッホの友人で絵具を売っていましたが、2人はこのような日本へのあこがれを一緒に語っていたのではないのでしょうか。</p> <p>この作品に描かれているのは、その思い出かもしれません。背景の浮世絵とタンギー爺さんは、同じ空間にいるように見えながら、浮世絵の世界にタンギー爺さんが浮かんでいるようにも見えます。つまりこの作品は、ゴッホの理想の想像の世界なのです。</p>